

2007年夏(6月～8月)の東北地方の天候

- ・ 6、8月の高温、7月の低温（月ごとの気温の変動が大きい）
- ・ 遅い梅雨入り・梅雨明け
- ・ 台風第4号による大雨

(1) 2007年夏(6月～8月)の天候

東北地方は、夏平均気温では高温となったが、月ごとでは気温の変動が大きかった。6月、7月は太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱く、8月は一転し、日本付近への張り出しが強まった。このため、6月は梅雨入りが遅れ、移動性高気圧に覆われて、高温、多照となり、7月は梅雨前線の北上が遅れ、東北地方は寒気や湿った東風の影響で低温となった。8月は、梅雨明け後は晴れて気温の高い日が続き、特に中旬には記録的な暑さになった。

梅雨入りは東北南部で6月21日ごろ、東北北部で6月29日ごろ、梅雨明けは東北南部で8月1日ごろ、東北北部で8月11日ごろで、いずれも平年よりかなり遅かった。

また、7月には台風第4号が本州南岸沿いを通過し、この影響で東北地方は太平洋側の南部を中心に記録的な大雨となり、各地で土砂災害や浸水害が発生した。

3か月平均気温は東北地方で高い。3か月間降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。3か月間日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

6月： 中旬までは南海上の太平洋高気圧は北への張り出しが平年より弱かった。このため、梅雨前線は日本の南海上に停滞することが多く、東北地方では上空の寒気の影響で雷雨となった日があったものの、移動性高気圧におおわれて晴れる日が多く、気温も高かった。下旬になると、南海上の太平洋高気圧が強まり、東北地方は梅雨前線や低気圧の影響によりまとまった雨となった。

東北北部の地域平均月間日照時間は1946年以降で6月の極値を更新した。

月平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北地方でかなり多い。

7月： この期間、太平洋高気圧の北への張り出しが平年より弱かった。東北地方は上空の寒気やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響で低温となり、中旬は東北太平洋側を中心に入日時間がかなり少なくなった。梅雨前線は平年より南の本州の南岸沿いに停滞することが多く、東北日本海側では梅雨前線の影響を受けにくく、少雨となった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。月間日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

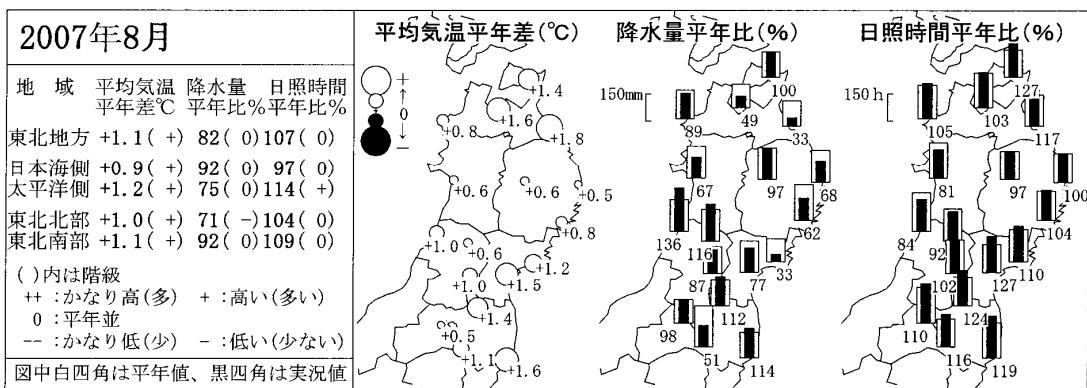
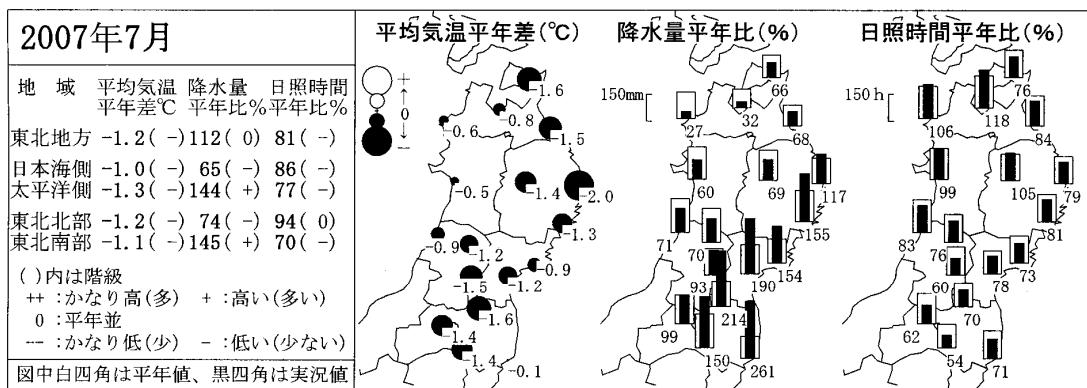
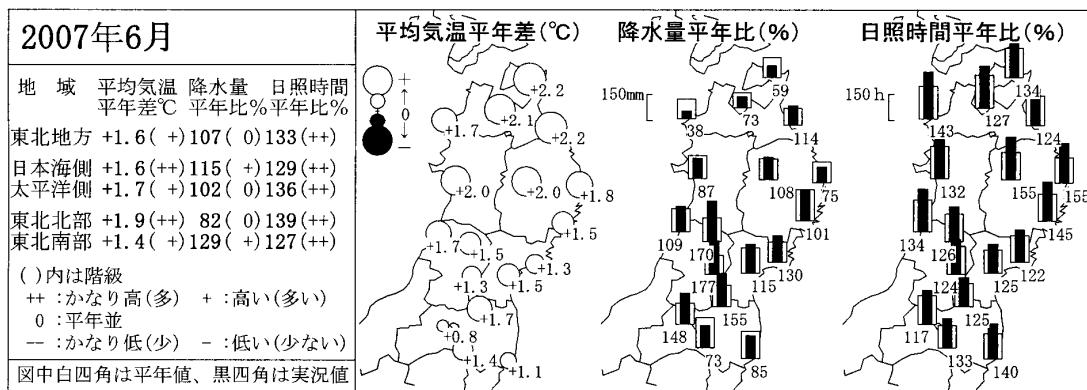
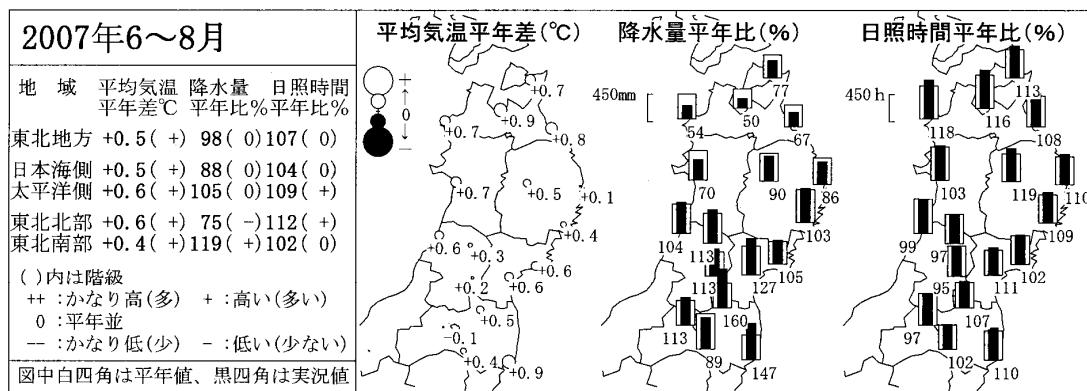
8月： この期間、前半を中心に入太平洋高気圧の北への張り出しが強かった。4日には台風第5号が日本海から津軽半島と下北半島に上陸、通過した。台風第5号が温帶低気圧となって東海上へ去ったあとは、次第に太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が続いた。特に中旬には高気圧の勢力が強まり、東北地方でも日最高気温の1位の値を更新するところがあるなど、記録的な暑さとなった。下旬には寒冷前線の通過や秋雨前線の影響で各地で大雨となり、土砂災害や浸水害などが発生した。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注を参照して下さい。

(2) 2007年夏(6月～8月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

- 注) 東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方
 東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方
 東北北部：青森県、秋田県、岩手県
 東北南部：宮城県、山形県、福島県

(3) 2007年夏(6月~8月)の気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			≥1mm	(h)	
青 森	21.3	(+0.9)	+	156.0	(50)	-*	21	635.4	(116)	+
深 浦	21.2	(+0.7)	+	221.5	(54)	-*	20	641.0	(118)	+
む つ	19.6	(+0.7)	+	285.5	(77)	-	23	526.7	(113)	+
八 戸	20.4	(+0.8)	+	239.0	(67)	-	28	553.8	(108)	+
秋 田	22.7	(+0.7)	+	340.5	(70)	-	31	566.9	(103)	○
盛 岡	21.5	(+0.5)	+	410.5	(90)	○	34	539.3	(119)	+
大 船 渡	20.8	(+0.4)	○	561.0	(103)	○	30	503.3	(109)	+
宮 古	19.5	(+0.1)	○	374.0	(86)	○	28	502.5	(110)	+
仙 台	22.1	(+0.6)	+	597.0	(127)	+	37	457.1	(111)	+
石 卷	21.4	(+0.6)	+	388.5	(105)	○	35	480.5	(102)	○
山 形	22.7	(+0.2)	○	446.5	(113)	○	35	472.1	(95)	-
新 庄	21.9	(+0.3)	+	555.5	(113)	○	34	471.5	(97)	○
酒 田	23.1	(+0.6)	+	510.5	(104)	○	33	561.9	(99)	○
福 島	23.4	(+0.5)	○	653.5	(160)	+	43	453.2	(107)	○
若 松	22.6	(-0.1)	○	458.5	(113)	+	43	509.2	(97)	-
白 河	21.6	(+0.4)	○	520.0	(89)	○	49	410.7	(102)	○
小 名 浜	22.2	(+0.9)	+	604.5	(147)	+	34	532.1	(110)	+

(注) 1. 平年値は1971~2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の欄の符号は、以下のことを示す。

+ : 高い (多い)

○ : 平年並

- : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971~2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。

また、階級が「高い（多い）」「低い（少ない）」となった地点のうち、1971~2000年間の中で、高い（多い）方または低い（少ない）方から10%に入る極端な値である場合には、階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い（多い）

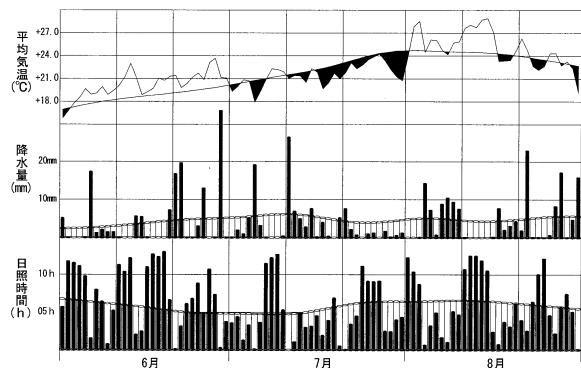
かなり低い（少ない）

と表現できる。

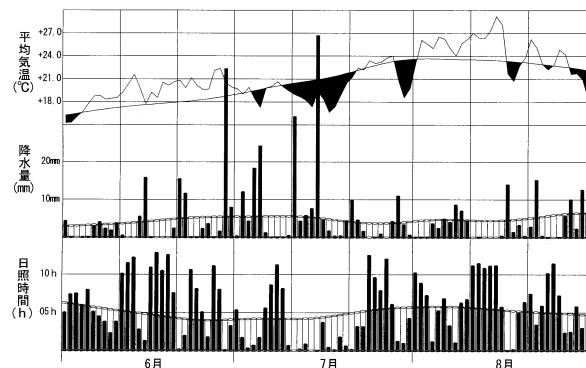
3. 値の横に) や] がある場合には、3か月別値を求める際に使用したデータ（月別値）に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値（準完全値）は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値（資料不足値）については、値の下に記載した統計月数（統計に用いた、品質が十分な月別値の数）を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

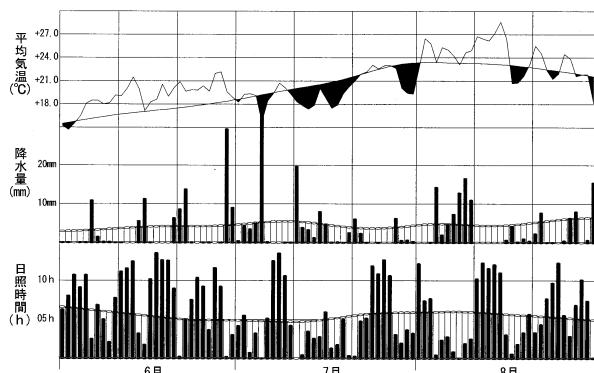
(4) 2007年夏(6月～8月)の日別経過図



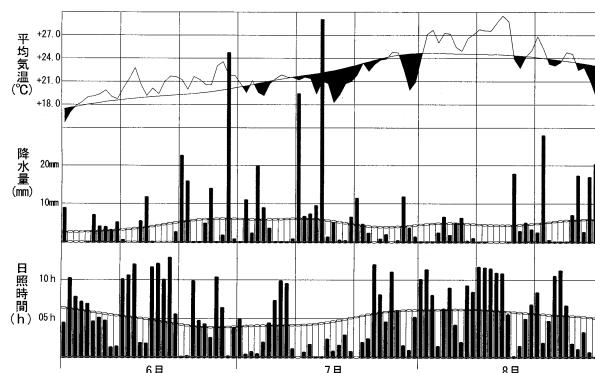
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東北南部

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(5) 2007年夏(6月～8月)の極値・順位更新

(3か月平均気温、3か月間降水量、3か月間日照時間の3位以内のみ)

なし

(6) 月統計値の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の1位のみ。)

月平均気温高い方からの順位更新

月	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 (西暦年)	開始年	平年値 ℃
6月	深浦	18.9	= +1.7	18.9 (1946)	1940	17.2
	盛岡	20.2	+2.0	20.1 (1991)	1924	18.2

月間日照時間多い方からの順位更新

月	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
6月	深浦	257.6	143	237.2 (1986)	1940	179.6

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

(7) 2007年夏（6月～8月）の3か月間猛暑日日数、3か月間真夏日日数、3か月間日最低気温25°C以上日数の極値・順位更新

夏の猛暑日（日最高気温35°C以上の日）多い方からの順位更新

順位	地点名	日数	平年差	これまでの最大 (西暦年)	開始年	平年値
1	石巻	1	+1.0	0 (2006)	1931	0.0
	小名浜	1 =	+0.9	1 (1996)	1961	0.1
2	大船渡	1 =	+0.7	5 (1994)	1964	0.3
	新庄	4 =	+3.2	6 (1994)	1961	0.8
	白河	1 =	+0.9	2 (1994)	1961	0.1

夏の真夏日（日最高気温30°C以上の日）多い方からの順位更新

なし

夏の日最低気温25°C以上の日 多い方からの順位更新

順位	地点名	日数	平年差	これまでの最大 (西暦年)	開始年	平年値
3	山形	1 =	+0.8	3 (1994)	1931	0.2
	石巻	1 =	+0.7	4 (1994)	1931	0.3

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

(8) 真夏日・猛暑日・日最低気温 25°C以上 の日数と今夏の最高気温

	日最高気温30°C以上				07夏 年平年	日最高気温 35°C以上	日最低気温 25°C以上	今夏(6~8月) の最高気温 (℃)	(起日)					
	6月		7月											
	07年	平年	07年	平年										
青森	0	0.4	4	3.9	14	7.6	18	11.9	34.6 8月15日					
深浦	0	0.0	1	1.4	7	3.9	8	5.2	32.5 8月2日					
むつ	0	0.1	1	2.1	8	4.0	9	6.2	33.4 8月15日					
八戸	0	0.6	1	5.2	12	7.4	13	13.2	35.3 8月15日					
秋田	1	0.2	1	4.9	8	9.7	10	14.8	37.0 8月3日					
盛岡	4	0.8	3	6.5	11	10.1	18	17.4	36.4 8月14日					
大船渡	0	0.4	1	3.4	12	5.7	13	9.6	37.0 *8月15日					
宮古	0	0.6	0	4.4	8	6.8	8	11.7	32.6 8月16日					
仙台	0	0.4	3	5.1	16	9.9	19	15.4	37.2 *8月15日					
石巻	0	0.1	2	2.3	8	4.8	10	7.2	36.8 *8月15日					
山形	6	2.4	4	11.7	21	17.5	31	31.6	37.2 8月2日					
新庄	2	1.1	2	7.9	16	13.0	20	22.0	36.4 8月14日					
酒田	1	0.5	0	6.5	17	12.6	18	19.6	37.1 8月3日					
福島	7	3.4	5	13.3	23	18.1	35	34.9	36.9 8月15日					
若松	5	2.2	3	12.1	21	18.4	29	32.7	36.6 8月14日					
白河	1	0.6	2	6.8	21	10.7	24	18.2	35.2 *8月15日					
小名浜	0	0.3	0	1.9	7	3.8	7	6.0	36.9 8月16日					

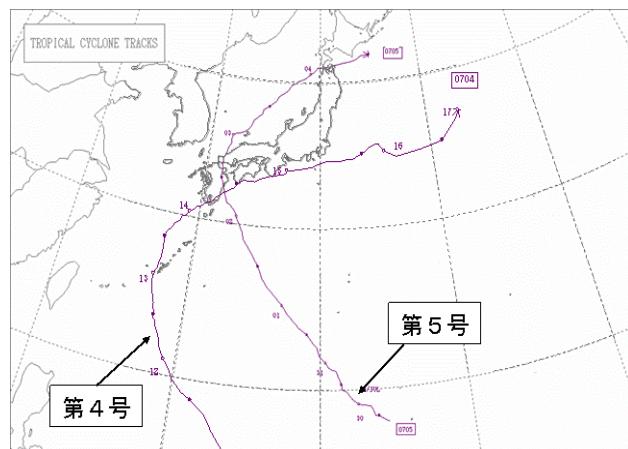
今夏(6~8月)の最高気温の「*」は日最高気温の1位の値を更新。

(9) 2007年夏(6~8月)に日本(本土)に接近した台風

今年の台風は、4月1日に台風第1号が発生して以来、8月31日現在9個発生している。夏(6~8月)の台風発生数は平年(11.2個)より少ない7個、本土接近数は平年(3.1個)より少ない2個であり、台風第4号と第5号が上陸した。

7月9日に発生した台風第4号は、14日鹿児島県に上陸後、15日にかけて本州南岸沿いを通過した。東北地方では台風や前線の影響で太平洋側の南部を中心に記録的な大雨となり、各地で土砂災害や浸水害が発生した他、台風の接近に伴って暴風による被害もあった。

7月29日に発生した台風第5号は、8月4日には日本海から津軽海峡付近を通過した。このため東北北部を中心に雨となったが、大きな災害はなかった。



2007年夏に接近した台風の経路図

今年と平年の月別の台風発生数、上陸数、本土接近数(2007年8月31日現在)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年				1	1		3	4					
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年							1	1					
	平年							0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0	2.6
接近数	今年							1	1					
	平年						0.0	0.3	1.2	1.6	1.6	0.7	0.0	5.2

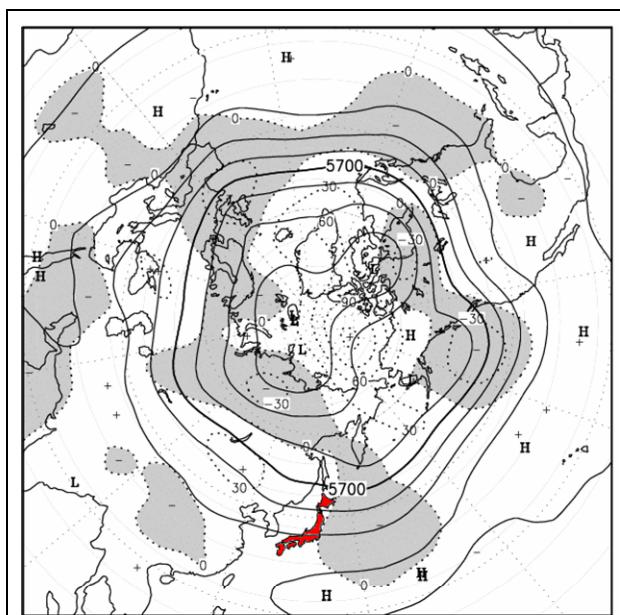
(10) 東北地方の梅雨入り・梅雨明けと梅雨の時期の降水量

地 域	梅 雨 入 り		梅 雨 明 け		梅雨の時期の降水量(mm) (かっこ内は平年値(mm) : 注2参照)と平年比
	今 年	平 年	今 年	平 年	
東北南部	6月21日 ごろ	6月10日 ごろ	8月1日 ごろ	7月23日 ごろ	仙台 405.0 (225.3) 180% 山形 246.5 (193.9) 127% 福島 414.5 (206.1) 201%
東北北部	6月29日 ごろ	6月12日 ごろ	8月11日 ごろ	7月27日 ごろ	青森 91.0 (148.3) 61% 盛岡 234.0 (231.3) 101% 秋田 207.5 (246.8) 84%

注1) 梅雨は季節現象であり、その入り・明けは平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。このため、時期の表現は「移り変わり」の期間の概ね中日をもって「**日ごろ」としています。

注2) かっこ内は比較のための降水量で、同時期（東北南部は6月21日～7月31日、東北北部は6月29日～8月10日）の日別平年値の合計値を示しています。

(11) 北半球の大気の流れ（6月～8月）



6月～8月の平均 500hPa 高度・平年偏差図
実線は高度(m)、間隔 60m。破線は偏差(m)、間隔 30m。陰影部は負偏差域。

モンゴル付近に中心を持つ正偏差が日本付近に広がり、南の太平洋高気圧の正偏差域とつながっている。負偏差域は日本の東海上にあり、日本付近への寒気の南下は一時的だった。太平洋高気圧の本州付近への張り出しは6～7月に弱く、8月にかなり強かった。これは、フィリピン付近の対流活動が6～7月に弱く、8月に強かったことに対応している。結果として東北地方は、6月は移動性高気圧の、7月は梅雨前線やオホーツク海高気圧の、8月は太平洋高気圧の影響を受ける日が多くなった。8月中旬には、南シナ海北部で対流活動が非常に活発になったのに加え、偏西風が日本付近で高気圧を強めるように蛇行したため、本州付近で太平洋高気圧の勢力が強まり、著しい高温となった。